

ふれあい情報

2021年 5月 27日 (木) 第328号

■発行 日本退職者連合
 ■発行人 野田 那智子
 ■連絡先 〒101-0062
 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

<TEL> 03-5295-0507 <FAX> 03-5295-0541 <e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

退職者連合 結成30周年事業

次世代継承委員会発足



第1回次世代継承委員会 挨拶する人見会長 (4月14日 ルポール麹町)

去る4月14日、ルポール麹町で第1回次世代継承委員会が開催されました。冒頭あいさつに立った人見会長より、退職者連合結成30周年事業の一環として、これからの社会を担う次の世代に伝える、あるべき社会のビジョンを策定する作業を開始するに至った経緯が説明されました。

「自由で民主的な福祉社会」「差別も格差もない平等社会」「平和で幸福な安心社会」「自然と共生した持続可能社会」の四つのテーマで、2022年度定期総会までを目的に議論を進める予定です。

次世代継承委員会では、私たちが目指す社会で実現すべき理念として「すべての個人が自分の生き方を自由に選択でき、人生の目標を自由に追求する機会が保障される社会」を掲げました。一言で言えば自由権の尊重です。

連合結成以来、歌い継がれてきた「幸福(しあわせ)さがし」の歌詞にある「十人十色の幸福さがし」の思いにも重なるものと言えるでしょう。しかし目の当たりにしている政治や経済は、私たちが追求してきた理想と、なんとかけ離れていることでしょうか。そして新型コ



次世代継承委員会委員長 森嶋正治さん挨拶

課題がどこにあるのかを探り、少子・高齢化、経済制度など何が原因でどうしてゆくのかを検討する。目的をあいまいにせず、目指すべき方向性を明らかにしたい。(第1回委員会より)

次世代継承委員会委員

- 委員長 森嶋正治副会長
 委員 川端邦彦常任幹事
 本村富美子常任幹事
 大山勝也常任幹事
- 地方退連代表
 富山 隆 北海道ブロック・北海道
 林 晃 近畿ブロック・大阪
 藤川七郎 九州ブロック・福岡
- 事務局 主査 早川副事務局長、野田、大内

コロナ感染症が猛威を振るうなかで、格差や貧困が顕在化し、弱い者に不幸がしわ寄せされる社会の脆弱性が明らかになっています。このようなときこそ国境を越えた世界各国の連携が求められているにもかかわらず、実際には米中対立を背景に世界のブロック化さえ進行しています。退職者連合は2021年度運動方針(素案)で、私たちがとりまく情勢を「転換期の世界」と位置付けていますが、転換期にこそ次世代に継承すべき社会像を描かなければならないと思います。委員会では、上記の四つのテーマで

議論を進める予定です。そこでは具体的に精緻華麗な社会像より、あるべき社会では何が実現され、そのためにいま何をなすべきか、誰がそれを担うのかといった見取り図を構想できればと考えています。

第一回委員会はフリー討議を中心に進めましたが、子どもや孫の将来を見据えた社会を考えなくてはいけない、あるいは現役から退職者へと切れ目のない運動で理念を継承してゆくべきなどの意見が出されました。また今号に4名の委員から、それぞれの思いを寄稿していただきました(2面)。今後とも冒頭に掲げた理念を体現したビジョンづくりに向けて、拙速に陥ることなく、地道に幅広く議論を深めてゆきます。

(主査 早川副事務局長)

告示

日本退職者連合規約第26条により、以下の通り第25回定期総会を開催する。

記

- 1.とき 7月15日(木) 9:30~15:00
- 2.ところ 連合会館2階 大会議室
- 3.代議員 代議員の割り当て等詳細は、次回幹事会(6月9日)の決定を経て、ご連絡いたします。

日本退職者連合

継承すべき課題と活動の展望

藤川七郎(福岡県退連事務局長)

1 基本的人権、平和主義、民主主義は時代が変わろうとも継承されるべき理念であり、これを具現化することが退職者連合活動の基本であり、そのため連合と現退一致の活動が一層求められま

2 平均寿命は、30年前から5歳延びており男性81・41歳、女性87・45歳となり、2050年代は男性が87歳、女性は93歳近くになると推測されます。

年金受給開始年齢は60歳から65歳になり、30年後の70歳は避けられない

ことから70歳現役社会を見据えた新たな政策制度要求が必要です。

3 健康寿命を平均寿命に近づける活動は退職者自らの問題であり、退職者が主体的に参加できる活動を具体的に示さなければなりません。

4 連立が行っている社会貢献活動を退職者は日常的に取り組むことができます。自治会役員や民生委員を多くの退職者会員が担っています。

地域共同体の崩壊や高齢化が進む中では、社会貢献活動として退職者連合も自治会活動や民生委員活動を積極的に担わなければなりません。



次世代継承委員会の議論に寄せて

日退連の未来について

富山 隆(北海道退会長)

長期的な情勢課題は、少子高齢化社会、人生100年時代、一方、日本の財政、借金は世界の先進国で最悪に、将来世代へつげ回しをしている。今後も年金、医療、介護など社会保障費の保険料引き

上げや負担増、消費税増税が付きまとう。さらに、世界の気候危機は深刻で、世界各国が共通認識で2050年までに

温暖化対策を本気で取り組まなければ、子や孫だけではなく現役世代も大きな影響を受ける。また、日本はどのような

国を目指すのか。米中新冷戦で中国との緊張関係が高まっている。明るい未来より不安の方が多いため。連立ビジョンで「懸念する未来に対して」「私たちが未来を

かえる」と宣言。日退連に結集し、連合と協力して、未来を変える。

日本の政治の流れを変える。今年の秋までに解散総選挙が、政権交代を目指しましょう。

(日退連の将来ビジョンについて)

連合の生涯組合員構想が立ち消えに、早急に検証、総括が必要です。日退連の将来ビジョンを考えるならば、連合と日退連の関係、位置付けが重要です。連合の産

別組織は退職者を組織する。連合の組合員は退職後は退職者会に加入する、高齢者の政策制度などを中心に、現退一致の運動を。地域でも連携していく。連立運動の持続した組織として退職者会を位置

づけし、生涯組合員、生涯現役を目指すべきです。

伝えたいこと、伝えなければならぬこと

本村寛美子(常任幹事)

私は次世代に引き継いでほしいことがあろうと思う。それはこのコロナ禍で実質的失業者が146万人(女性は103万人、

野村総研調査)という貧困・困窮の深刻さだ。解雇により寮や住まいを失った人がネットカフェ難民となり、路上に出て支援団体の炊き出しや子ども食堂や生活相談に訪れている。自死も増えている。セーフティネットの手厚い社会が今求められている。

また私は沖縄で「基地」による犯罪・事故・騒音・環境汚染のことを聞いた時、ここは平和といえるのかと思った。平和とは外国との関係だけではなく、日常にも暴力がない状態だと思う。「基地」により命を脅かされたり、女性がDVで暴力に遭うことのない社会こそ次世代に伝えたい「平和」だと思ふ。

ジェンダー平等の社会を求める退職者連合としてできること、やらなければならぬことがあるはずだ。



現職から退職者まで切れ目のない活動を

林 晃(大阪退連会長)

次世代継承委員会は緒に就いたばかりだ。検討の視点について少し触れておきたい。次世代における社会の課題は、感染症問題への対応、少子・高齢化の対応、温暖化対策の可能な社会づくり等が中心であることは確かだと思ふ。これらに対応できる活動の道筋をつけておくのが現世代の使命だ。最も身近な課題は、人生100年時代における持続的な社会保障制度のあり方とその対応だと思ふ。

年金・医療・介護は、保

険制度の創設時と比べ今や大きく後退しつつある。時代や財政事情の変化を踏まえつつも、できるだけ理念や目的に近づける努力が必要である。

一方、退職者連合の組織課題は会員拡大と地域活動の強化だ。これが今、大きな壁に阻まれている。打開するには連合が以前に企画した生涯組合員構想の実現と地域・地区協単位での退職者組織の組織化と強化だ。連合と退職者連合が、今こそ腹割って話し合い、現退一致で実現することが肝要だと思ふ。

「2021年エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例」に推薦

内閣府より退職者連合に対して「2021年エイジレス・ライフ実践事例(個人)と社会参加活動事例(団体)推薦」の要請があり、次の通り1個人と1団体を推薦しました。

(個人)

最上としさん

(NIT退連、青森県高退連)

「推薦理由」「津軽弁」継承のボランティア活動

津軽弁で「昔っこ」を語る会「なやわや」を

し、子どもたちやグループホーム、デイサービスで昔話をする活動を続けている。

(団体)

石川県退職者連合

「推薦理由」竹林伐採ボランティア活動

加賀市橋立自然公園において年2回、50名程度参加し、環境保全の観点から竹林伐採を行っている。